

「事業名：産学官民連携による「ロハスコミュニティ」の実践を通じた地域共創人材の育成

日本大学 連携市町村：葛尾村・富岡町

現地拠点：福島県双葉郡葛尾村落合菅ノ又14-2中学校校舎内

事業のポイント

本事業は、日本大学工学部が葛尾村及び富岡町で継続してきた産学官民連携による「ロハスコミュニティ」の実践知を基盤に、交流拠点づくりとその利活用・地域内外の交流促進を担う地域共創人材の育成を5年間を通して図るものである。葛尾村では葛尾村復興交流館を核とした公共施設活用型の持続可能な交流拠点づくりを、富岡町では富岡駅前を核とした公共空間活用型のにぎわい創出拠点づくりを実践フィールドとして位置づける。前事業実績である葛尾村の拠点づくりや能舞台活動、富岡町のまちづくり支援、3Dデータ活用・観光ツール開発等の成果を、自治体ニーズに即して「人への投資(人材育成)」へと重点化・発展させ、ハード(空間)とソフト(人・DX)が融合した持続可能なモデルを構築する。

人材育成・定着計画及び目標

大学生：ゼミナール・卒業研究・大学院特別研究と連動した実践型インターンシップを通じ、課題抽出、企画から実施、事後評価までを一貫して担える実務能力を備えた人材を育成する。活動を通じて地域への愛着を醸成し、将来的な定着(就職)や、専門性を持った関係人口としての継続的な関わりを目指す。**地域住民：**住民、子ども、若者、社会人を対象に、DX活用講座(3Dモデリング、デジタルファブリケーションの活用技術、情報発信等)を実施し、「教えられる側」から「自ら活用する側」への転換を促し、自立的に担える人材を育成する。

2026年度の活動内容

葛尾村：復興交流館を核とした公共施設活用型の持続可能な交流拠点づくり。

富岡町：富岡駅前を核とした公共空間活用型のにぎわい創出拠点づくり。

取組によって得られる成果

公共施設活用型モデル(葛尾村)と公共空間活用モデル(富岡町)の実践を通じた人材育成、対照的なフィールドでの実践を通じ、汎用性の高い地域共創モデルを提示する。DX講座を通じて「教わる側」から「使いこなす側」へ転換。デジタルツールを使いこなし、自立的に運営・発信できる人材を育成する。

産・学・官・民の連携 / 自治体・住民・企業・大学等との共同実施 / 正規カリキュラム接続

葛尾村

復興交流館を核とした公共施設活用型の持続可能な交流拠点づくり。

- 課題の抽出
- 持続可能な交流拠点づくりの実施
- 関係人口の拡大

ロハスコミュニティの実践

学生と地域が現地で
課題抽出→企画→実装→発信→改善を回し、卒業後も関わり続ける担い手を育てる。

富岡町

富岡駅前を核とした公共空間活用型のにぎわい創出拠点づくり。

- 課題の抽出
- 駅前にぎわい創出拠点計画案の作成支援
- 関係人口の拡大

横断手法：DX技術の活用・デジタル制作・情報発信・アーカイブ

DX技術(デジタルファブリケーション、3D可視化、広報制作、記録等)の技術提供。

地元組織・他大学との連携